

6. RI 検査で診断しえた不明熱を伴う胸部大動脈瘤

越智 宏暢 横山 俊昭
谷口 脩二 吉田 梨影
池田 穂積 浜田 国男
玉木 正男

(阪市大・放)

奥野 泰久 西本 儀正
(同・2内)

症例は 60 才の女性で約 5 ヶ月前に突然の意識消失 (5~10 分) があり, 続いて心窩部の強い痛みを訴え某病院へ救急入院。発熱, CRP の高値, 血沈の高度亢進があり抗生物質にも反応しないため, 精査の目的で本院に入院。入院時 38~39°C の発熱, CRP (卅), 血沈 109 (1 時間値) であった。胸部単純 X 線写真で cardiomegaly と上縦隔の拡大がみられた。RI-angiography を行なったところ, 上行大動脈から大動脈弓にわたる拡張像とプーリング像が認められた。胸部大動脈瘤と診断し contrast-angiography を施行。上行大動脈に紡錘状大動脈瘤と腕頭動脈分岐部から腹腔大動脈分岐部にわたる解離性大動脈瘤が認められた。数カ月にわたって不明熱や検査成績の異常値の原因究明が困難であったが RI-angiography が胸部大動脈の異常を指摘し contrast-angiography で解離性大動脈瘤と確定診断し得た症例であった。

initial bolus transit でみられる大動脈弓の像はシンチカメラの resolution の改良で非常に鮮明にとらえることができる。しかし解離性大動脈瘤と他の大動脈瘤との鑑別は困難と考える。

7. 二核種による肝シンチグラムが有用であった 2 症例

河合 武司 坂田 恒彦
岡橋 進 種子田秀樹
小川 翼 赤木 弘昭
(大阪医大・放)

一核種 ^{99m}Tc -Sn-colloid 2mCi 使用による肝シンチグラムで Space Occupying Lesion (S.O.L) が読影困難であった症例について, 検査日より 2~3 日前に ^{67}Ga -citrate 2mCi, 当日 ^{198}Au -colloid 300 μCi を各々静注, 同時測定して中央演算処の装置にて減算及びバックグランド処理した結果, 肝腫瘍が異常陽性像として描画された 2 症例と, 肝腫瘍を否定された 1 症例について報告した。

症例 1, 58 才, 男, 下腹部膨満感, 体重減少にて来院, 二核種による肝シンチグラムで肝門部に異常陽性像を認めた。剖検により同一部位に癌細胞肝を認めた。

症例 2, 77 才, 女, 下腹部痛にて来院した胃癌患者で二核種による癌シンチグラムで異常陽性像を認め, 開腹手術時に肝転移を確認された。

症例 3, 52 才, 男, 上腹部痛と黄疸にて来院, 一核種で S.O.L. を疑って, 二核種で否定された症例で現在経過観察中です。

〔結語〕 一核種による肝シンチグラムで S.O.L. が読影できなかった症例で二核種による肝シンチグラムで異常陽性像を得たのが 5 例あり, 一核種による S.O.L. を否定したのは 3 例あり, 二核種を使用する事により有意義な結果を得た。